■ 河合塾テキスト「高３ 共通テスト対策地理〈2026年 １学期〉」演習問題 解説 ■

【第12講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	③	③：正答。**ア**：輪中集落。濃尾平野西部の揖斐川，長良川，木曽川下流域に広がる沖積平野には，洪水被害を防ぐために，水田や集落を取り囲むように堤防がつくられた輪中集落がみられる。なお，環濠集落は，古代から中世に成立した防御や灌漑用水の確保のために，周囲に濠をめぐらせた集落で，奈良盆地に現存する。**イ**：丘上集落。外敵や野獣からの防御のほか，暑さやマラリアなどの風土病を避けるために，丘の上に立地した集落で，地中海沿岸やインドネシアなどにみられる。なお，林地村は，中世から近世にかけて，ドイツやポーランドなどで，森林地帯の計画的開拓にともなって成した集落である。	★★
2	④	④：正答。都市人口率は，第２次・第３次産業が発達する先進国で高くなり，第１次産業が全産業に占める割合が相対的に高く農村人口が多い発展途上国で低くなる傾向にある。ただし，新大陸では農業の経営規模が大きいことなどから農村人口が比較的少ないため，都市人口率が高くなっている国が多い。また，都市人口の増加率は，すでに都市部に人口が集中している先進国では低くなり，農村部の人口増加によって余剰労働力が都市部に流入している発展途上国で高くなる傾向にある。イギリス：**イ**。先進国であるため，都市人口率は高いが，都市人口の増加率は低い。タイ：**ウ**。発展途上国であるため，都市人口率は低いが，都市人口の増加率は高い。ブラジル：**ア**。発展途上国であるが新大陸であるため，都市人口率，都市人口の増加率ともに高い。また，首位都市（サンパウロ）の人口は非常に多いが，国全体の人口も 2.1 億人と多いため，首位都市の人口割合は低い。	★★★
3	④	④：正答。**Ｆ**：余剰労働力。発展途上国では，第１次産業が全産業に占める割合が高く農村部の人口割合が高かった。栄養状態や公衆衛生の改善などによって，農村部で人口が急増した。そのため，雇用機会の少ない農村部では余剰労働力が増加した。**Ｇ**：スラム。農村部の余剰労働力は雇用機会を求めて都市部に流入したが，産業基盤の弱い発展途上国の都市部では雇用機会が少ないため，不完全就労者となり，既成市街地内の住宅に居住できないことから，市街地の外縁部などの土地を不法占拠し，粗末なつくりのバラックが建ち並ぶスラム（不良住宅地）が形成されている。	★★